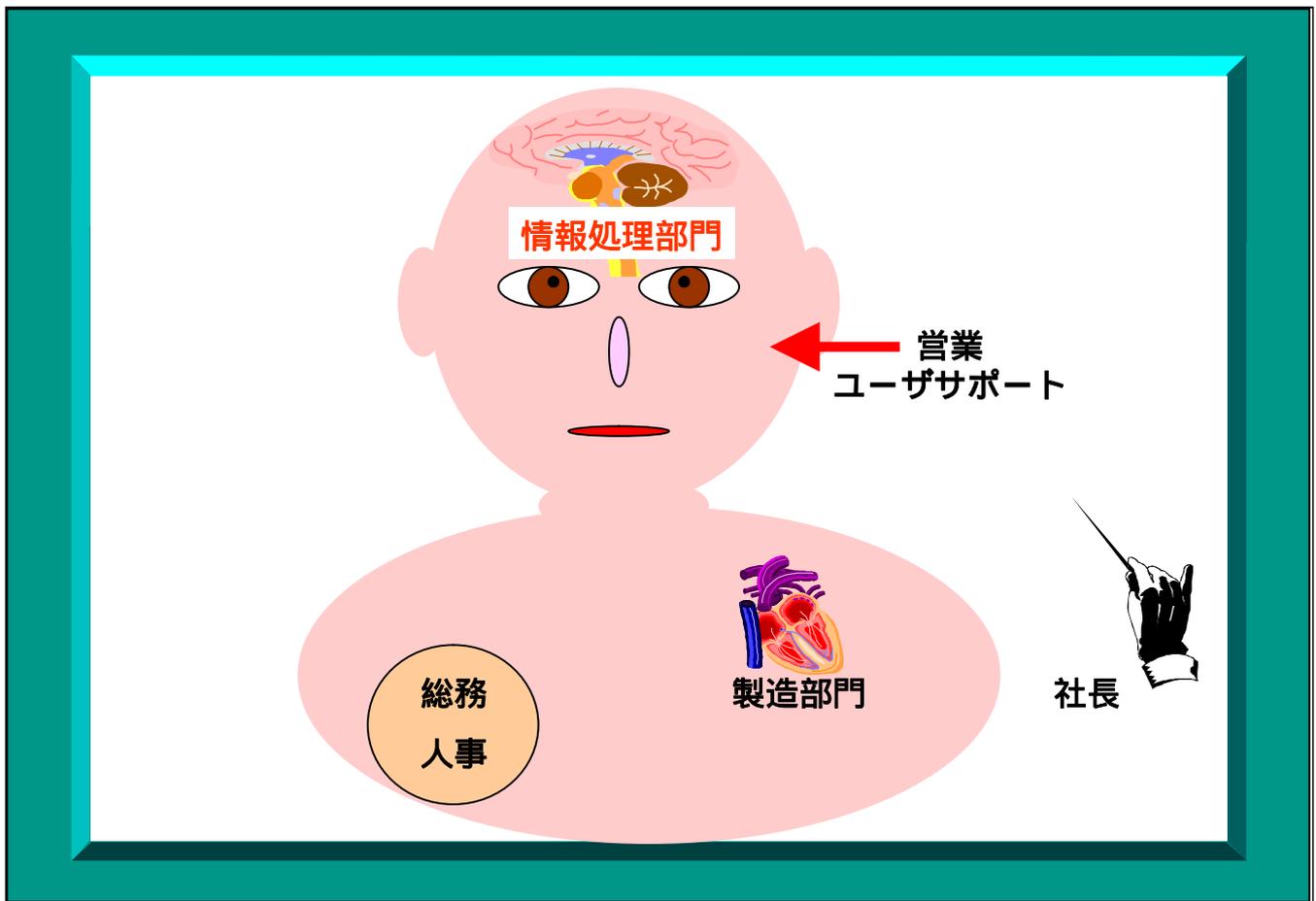


社内における情報部門の位置



会社を人間の身体に例えると

営業、ユーザサポート部門は、

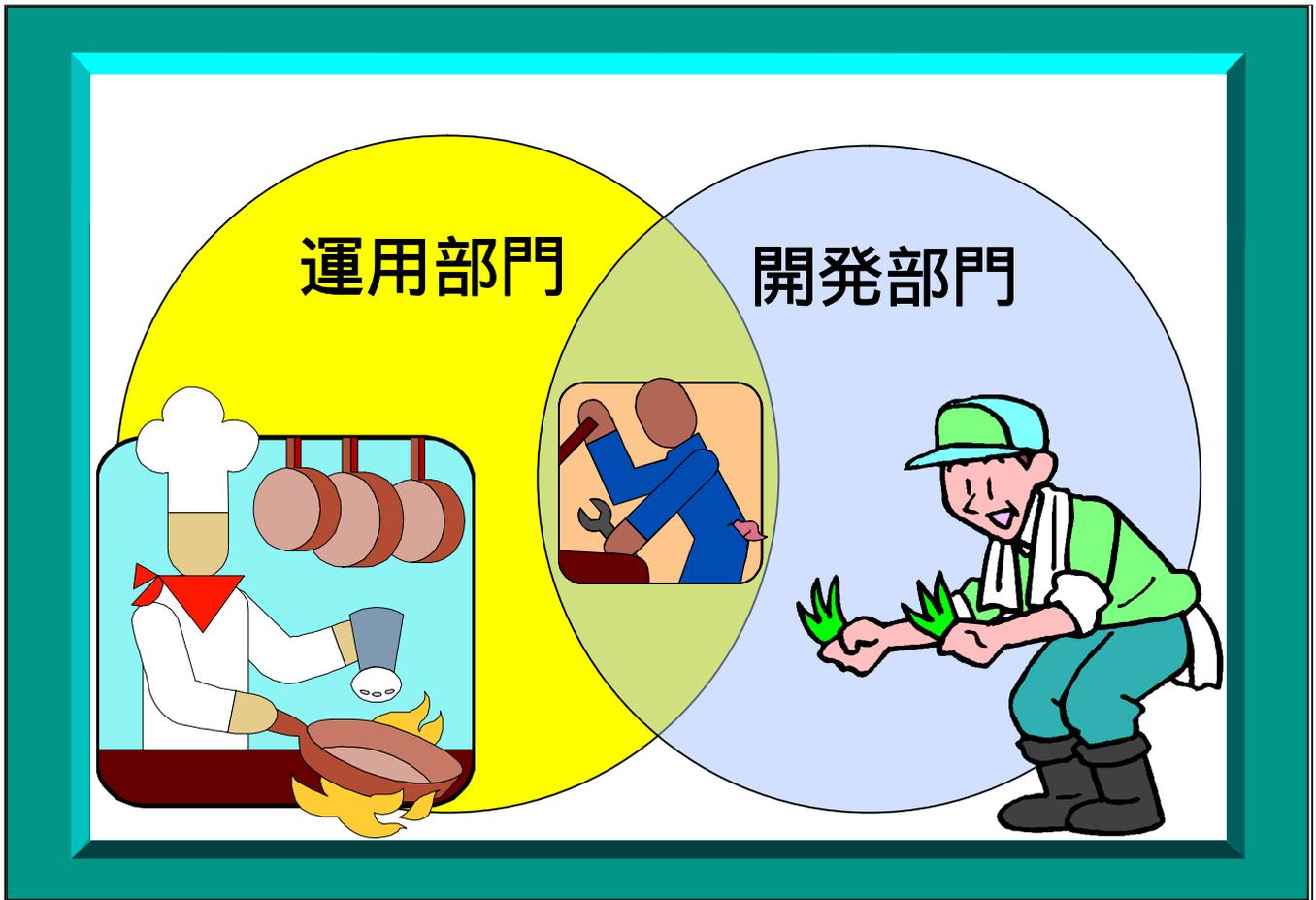
- 会社の顔であり
- お客様へ情報を伝達する口であり
- お客様の状態、世間の流れを見聞きし、匂いを嗅ぎ分ける、目、耳、鼻に値します。

製造部門は、会社全体の活力の源であり、これが止まると即死に繋がることより心臓に値します。

総務、人事部門は、常に新しい血を供給し、老廃物を除去する肝臓、腎臓に値します。日頃は、目に見えませんが、この部門が悪化するとじわじわと身体（会社）が悪くなってきます。

情報処理部門は、これら全ての情報を集め又適切な判断材料を各部位（部門）へ供給し健全な身体を作り常に成長（又は、新陳代謝）をさせる身体の正に中枢部、脳に値します。この部分が、正常に機能しないと身体のあちこちに不具合が生じます。皆様は、この脳細胞にあたります。重要な役割を担う部分になるか、活用されない部分になるかは、皆様の今後の活躍次第です。

社長は、身体の部分では、ありませんが全体を指揮する手に値します。この指揮棒の振り方一つで全体の調和が保たれます。



情報システム部門内の代表的な部門は、以下の2部門となります。

開発部門…… 社内の業務改善の為に新たな仕組みを作成（構築）する部門。

運用部門…… 開発部門が、作成した仕組みを効率よく動くように管理（運用）する部門

開発部門を農業従事者とする、作成された農作物が、一級品でも規格外の品でも、お客様（社内ユーザー）へ最高の料理にして提供する腕のあるコックさんが、運用部門に値します。



開発部門と運用部門には、クロスする業務領域があります。

新規開発された仕組みを日々運用していく内に、仕組み（プログラム）に不都合な部分やもともと正しい動きをしない部分が、表面化することがあります。この不具合が正しく動くように、微調整を行なう必要があります。この微調整（メンテナンス）を専門に行なう部署は、お客様の組織の形態により、開発部門であったり運用部門であったりします。

この **メンテナンス部門**では、次の業務を行なうことがあります。

- 新規開発された仕組み（プログラム等）が、運用後に発見された不具合の修正
- 本番稼働後のシステム的な問合せに対するQ&A
- 仕組みを動かすスケジュールをユーザーの窓口となり調整する
- スケジュール決定後、運用部門へ処理の依頼をする

このメンテナンス部門の人員が、情報システム部門の半数以上を占めるようになってきています。